

理事に就任して

応用地質株式会社 東北事務所長
江本 満



はじめに

平成31年4月に東北地質調査業協会の理事を拝命致しました応用地質株式会社東北事務所の江本です。

東北勤務は初めてで、仙台には平成25年の4月に着任し7年目になります。早期の震災復興が求められる東北に着任し、沿岸部の復興事業にも携わってきました。今後も東北地質調査業協会の会員として、微力ではございますが東北地方の地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきますので、宜しくお願い致します。

東北着任までの歩み

四国は徳島県の南部にある阿南市で生まれ学生時代は四国で生活していました。徳島県の観光はあまりないのですが、阿波踊り、鳴門の渦潮、マニアックな所で、祖谷のかずら橋といった所です。また、四国遍路八十八箇所の一巡礼所である霊山寺から二十三巡礼所の薬王寺があります。

少年時代は海釣りに夢中になっていた、まさに田舎の少年でした。徳島南部には蒲生田、由岐、日和佐、牟岐、と名産がございますので、機会がございましたら是非磯釣りにチャレンジ下さい。

応用地質への入社が決まり、最初に着任したのは福岡でした。徳島の田舎者からしてみれば、それは大都会に来てしまったとドキドキしたのを覚えています。その後の転勤は順をおって、沖縄、熊本、岡山、鳥取、島根、静岡、そして宮城と主に西日本での勤務が長かったのです。

ここからは、赴任先で携わってきた主な地質調査の内容と、少しのエピソードをお伝え致します。

福岡着任時の新入時代は右も左もわからない状態でしたが、地すべり調査と工事の施工管理、海上調査を主に実施しました。特に地すべり調査で印象に残っているのは、佐賀県の北松型地すべりで、農道建設のための擁壁施工で路肩よりわずか3.0m上方斜面を掘削したために、斜面上方100mもの山腹に滑落崖が発生していた現状を見たときでした。新人の自分はずかしの土塊バランスで、ここまで規模の大きな地すべりを誘発するのかと、驚いたと同時に、その後の地すべり変状踏査の基礎を学んだものでした。

沖縄では、海上調査と米軍基地の施工管理を担当しました。宮古島の沖防波堤の上で約1年半、防波堤の建設に合わせて、特殊土である珊瑚礫混り土の特性を観測しておりました。沖縄ではつらい経験がございます。米軍基地内でヘリポートを山中に施工する管理を行い、芝生の貼付けも完了し、いよいよ本日検査の日に、無情にもヘリが急に着陸し、検査を待っていた芝生が、渦巻き状に吹き飛ばされ、言葉も出ないまま検査官と目を合わせた無情な経験がありました。

熊本では、新港を建設するため、有明海での堆積厚さ50m程度の軟弱地盤の調査と動態観測、新空港建設の地表踏査と土量変化率調査を行いました。また、地すべり調査から、この時に初めて対策工の設計に携わることになり、基準書や解説書に悩まされながら、ドラフターで図面を作成したものでした。工事中の現場にもよく呼びつけられましたが、やがて完成した構造物を見たときには大きな感動を覚えました。

岡山では、今までに経験した業務が多かったため、業務も順調に進められまし

た。一つだけ泉源調査で、放射能、炭酸ガス、水銀ガス等の調査を行い、泉源掘削の場所を提案しその後、水温47度で毎分270ℓの温泉が自噴したとの結果に喜んだものでした。

鳥取、島根では営業所長、支店長として業務管理等を行いながらのプレイングマネージャーとしての働き方へと移行していきました。

ここでは、大規模な地すべりに対して、本格的に自動観測・監視を行うため、伸縮計、GPS、トータルステーション、ワイヤーセンサー、水盛式沈下計など様々な計測器を自動化し観測を行いました。何故か、週末になると異常通報が発生し悩まされたことも今では懐かしい思い出になっています。

東北着任前の静岡ですが、主に業務管理が中心であったため、個別での技術業務の実施は少なくなりましたが、富士山の落石対策のため危険箇所を直登し対応したことが印象深いものでした。

いずれの赴任先でも、困難な業務であればこそ成し遂げた後で、事業者より「助かった、ありがとう」と言葉をかけられる度に苦労も吹き飛び次への活力を頂いたものでした。

地質調査業の役割

地質調査業の役割として、インフラの整備、メンテナンス、防災・減災、資源・エネルギー確保、環境保全があげられます。安全・安心な社会を維持、持続するための社会貢献が求められています。

近年、熊本地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨、台風19号豪雨など、甚大な被害をもたらす災害が毎年のように発生しています。このような自然環境にあって、防災・減災を課題とする国土強靱化への対応も重要な役割です。

現在、我々を取巻く社会環境は大きく変化しております。情報技術では、IoTや人工知能、更にビックデータの活用と急激に変化しております。業界でもBIM/CIMの活用と、地質調査の成果も三次元化へ技術の進歩が求められてきております。地中の堆積構造、地下水など

不可視な部分をボーリング調査、物理探査等を有効かつ効果的に活用し、成果を分かりやすくするよう研鑽していくことも重要な役割となります。

また、広く一般国民に地質調査業の必要性・重要性を理解頂くために認知度を向上させる広報活動も重要な役割と思います。

仙台に着任してから現在まで、微力ながらではありますが、小学校5年生には土の働きとして、保水性、浸透性、浄化作用の理科授業を行っております。土を知ってもらうことから、自然環境の大事さを伝えております。小学校6年生には地球の仕組みと災害について、地震の発生の説明や液状化の実験を行い、防災の重要性についての理科授業を行い、少しでも地質に興味をもってもらえるような活動も行っております。



写真-1 理科授業

おわりに

安全・安心な社会を維持・持続するために東日本大震災や台風19号豪雨の対応について、広く社会に伝承し調査業協会の活動を理解頂くことが重要になります。高齢化、少子化が進む中、魅力ある業界として国民に理解されることが、担い手確保に繋がるものと思います。もちろん、働き改革の推進など、企業としても魅力あるものにする必要がございます。

協会活動を通じて、地質調査業の役割を十分に果たせるよう努力して参りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。